

H25. 2月号 巻頭言：信州カラマツ 川上村物語

高原野菜の産地として有名な長野県川上村は、広大な高原にレタス畑が広がる。レタス畑の前は何だったんだろうか。それは、カラマツの苗木を育てた苗畑だった。戦後、ここから出荷された苗木は県内のみならず、北海道へ海を越えて大量に渡って植えられている。

北海道の道東地方の風景には、青い空と空に伸びるカラマツ林が風物詩である。林業的にも有名なパイロットフォレストや農地を守るために格子状に植えられた中標津の防風林が、ここから巣立っていった。パイロットフォレストは、厚岸湾の上流の湿地帯に植えられ、見事に育っており、その結果、厚岸湾のカキ養殖に役立つこととなり、「森は海の恋人」の原点の代表事例として有名である。そういえば、北海道の林業関係者は、カラマツを信州カラマツと呼んでいたが、この記憶が息づいている。開拓というと人が移住したといわれるが、カラマツも移住したのである。川上村の村長さんに聞くと韓国の見本林にも川上村のカラマツが根付いて森林になっているという。映画「道-白磁の人-」で有名になった浅川巧は、林業技師として韓国で木を植えた話の主人公であるが、彼は川上村のカラマツを持っていったということである。彼は山梨県北杜市の出身であるが、地図を見れば川上村の隣村の出身であることがわかる。

こうして植林された信州カラマツは、やっと成熟期を迎えている。北海道林業や農業・漁業を支えるカラマツの歴史を考えると感慨深いものがある。レタス畑を見つめながら、カラマツの利用に努める責務は我々に課せられた使命と再認識している。

北海道全般の長野県からの移入状況 (単位：千本)

年度	移入本数	道内生産	年度	移入本数	道内生産
昭20	22,863	—	39	25,138	245
21	1,000	—	40	51,641	20,261
22	7,510	10,640	41	47,652	29,300
23	—	—	42	22,520	35,300
24	11,490	—	43	39,950	61,600
25	15,163	—	44	36,450	63,400
26	36,050	—	45	34,500	62,700
27	50,541	—	46	27,500	49,000
28	46,194	—	47	12,280	34,710
29	51,585	—	48	12,092	14,150
30	40,680	—	49	18,305	23,820
31	54,990	—	50	9,314	26,110
32	30,000	60,000	51	6,385	24,180
33	19,204	—	52	4,760	19,270
34	18,000	13,324	53	2,300	19,540
35	20,246	23,844	54	2,700	12,780
36	32,653	8,692	55	1,250	8,910
37	43,718	9,237	56	635	6,880
38	49,150	5,849	計	906,409	—